地域情報誌

和合

No.138
2021. 1. 15

題字：三浦修次

主な掲載記事

・和合探訪 ……2
・よつばっこ通信 ……4
・わたしから見た和合の里 ……5
・季節の郷土料理 ……6
・わごう駐在所 ……7
・はやぐおっきぐなれの～！ ……3
・わたしが描く和合の里 ……5
・畑にこんにちは ……6
・人生100年時代 ……7
・和合の里INFORMATION ……8

和合探訪

－和合のルーツ
ここにあり！－

前田野目編

◆参考資料
『前田野目部落史』
前田野目部落会
（昭和61年発刊）
『庄内町の文化財』
庄内町教育委員会発刊

村のはじまり

↑ 皇大神社

前田野目部落史（昭和61年発刊）によれば、創基は、元和八年（1622年）前田野目村立とあり、北楯大堰開削されて10年を経過した年でした。此の頃の部落周辺を見渡すと、東方に福島村、小真木村、南方に返町村、吉田村、中島村、桑田村があり、北方には南野村が既に村立されていたし、次いで新田目村、三ツ口村、小野方村、吉方村等が前田野目村と殆ど同じくして独立した村立途上です。

前田野目部落を開発された人々はどこから住み着いたものかは詳らかでありませんが、大堰開削当時に人夫として働いていた者、又古関や立谷沢方面から移住して来た者等の言い伝えがありますが、信ずべき史実を語る文書等は存在しません。

しかし、我々の先祖は、当地を永住の地と定め、開拓に従事したものと思われる。又、個々の百姓達はどのようにして、耕地を配分したものか、又住屋敷割などもどのような方式で行われたものか、不明であるが、村が開発を始めてから独立した村となるまでには、相当な年月と、労力や資金も要したものであることから資金と労働力等に応じた配分がなされたものではないでしょうか。

（注）伝説によると前田野目は舞田野目と書いたとありますが、開村当初より諸記録は前田野目明記されています。

田福山大明神御神体

↑鉄製　阿弥陀如来懸仏

鉄製陽彫の阿弥陀如来懸仏（直径24.5㎝）です。身光を背に蓮台に座した、浮彫りの如来像、両手は弥陀の定印の形です。昔は金色に輝いていたことが、胸の部分などに僅かに残る金粉から伺い知ることができます。

その脇御神体「稲荷神眷属懸仏」は阿弥陀如来懸仏と同じく、鉄製陽彫の白狐像で雌雄２体、高さ（直径19.0㎝）、表面に「諸願成就祈」、「別当□□□奉之」、「干時寛文６年（1666）月日」とかすかに読みとることができます。

↑鉄製　稲荷神眷族懸仏

合祀されている木造　虚空蔵菩薩像

左手に宝珠、右手に剣を持ち、頭に五仏の宝冠をいただいた虚空蔵菩薩像です。全身金箔塗りで高さ（光背高37㎝、像高30.5㎝、蓮華座高25㎝）、裏面に朱書、「京都信連法椿大仏師長嶋外記作　告延享元年甲子年記是」と明記されています。

（注）田福山大神社（現在の皇大神社）

↑虚空蔵菩薩像

パパとママにインタビュー

はやぐおっきぐなれの〜！

1 真っ直ぐに素直な心を持ち、どんな困難な事があっても負けずに立ち向かっていけるようにと願いを込めてつけました。

2 家族みんなで「いないいないばあ」をする事！

3 まだ4カ月でたまたまかもしれませんが、名前を呼ぶと「はい！　あい！」と大きい声で返事をし、とても可愛かったです！

森居 律斗（りと）ちゃん

（沢新田）

令和２年８月４日生まれ

パパ：理規（まさき）　ママ：三穂（みほ）

4 パパと楽しそうに遊んでいたのに急なパパの大きいくしゃみにびっくりして大泣きされました。

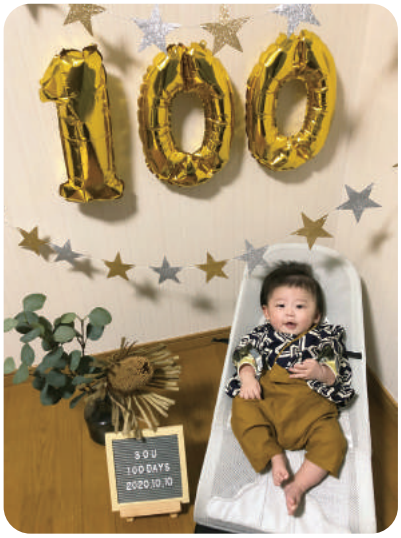
5 いつも癒しをありがとう！
これからもいっぱい泣いて笑って元気にすくすく育ってね！！

阿達　想（そう）ちゃん

（吉方）

令和２年７月２日生まれ

パパ：翔平（しょうへい）　ママ：妙（たえ）



1 人を想いやり、沢山の人に想われる存在になってほしいと願いを込めました。

2 手遊び歌です。最近、きらきら星の手をひらひらするところができるようになりました。体を動かすことが大好きです。

3 5ヶ月になり、離乳食をスタート。
初めて食べたお粥は微妙な顔をしていましたが、今ではとても上手に食べてくれます。

4 お昼寝中、少し目を離したらベッドから落ちてしまいました。寝返りが上手になり、より一層目が離せなくなりました。

5 みんなを笑顔にしてくれるあなたのことが大好きです。
これからものびのびとマイペースに成長していってね！！

Q1 名前の由来は？　Q2 今一番の興味やはまってることは？　Q3 最近記憶に残ったエピソードは？
Q4 パパママの失敗談（子育てあるある）　Q5 パパママからのメッセージ

余目第四幼稚園

よつばっこ通信

お楽しみ発表会！！大成功！

12 月 18 日、第 4 幼稚園のお楽しみ発表会がありました。今年はコロナ禍のため、子ども達だけでの発表です。

年中さくら組は、**“さるかにがっせん”**の劇をしました。さる、かに、はち、くり、うすの役になって、いっぱいいっぱいじゃれあって、遊ぶところからスタートです。毎日やりたい役をやって、どたばた笑い転げながら、楽しんでいた子ども達！はちは、ぶんぶん飛んで、戻ってこなかったり、うすは本当にさるの子の背中に乗ってしまって「本当に背中には乗りません！」と言われていたり・・・・柿をさるにぶつけられても「ぼく、強いカニだから倒れないんだ」と言っていたり・・・年中さんらしくて、笑ってしまいました。

なんやかんやで、ドタバタの劇でしたが、子ども達はリズムに乗って踊ったり、台詞を言ったりして、自分達の劇を本当に楽しんでいる姿に、嬉しくなって、心がほっこりしました♡

年長ぱんだ組は、**“桃太郎と鬼と仲間たち”**というオリジナルの劇です。お楽しみ会で発表したいものを、子ども達で考えたところ、「桃太郎」「浦島太郎」「スイミー」「忍者の劇」「虫の話」「プリンセス」「おっきな人参の話」等々、思ったより色々出たので、担任は焦っていたようですが、その時「じゃあ、色んなの一緒にしたらどう？」とある男の子からの提案・・・・。みんなそれに賛成し、今回の創作劇になったそうです。それぞれ台詞や、踊りも役ごとに相談し、練習していました。なかなか台詞を言えなかった子も、友達に助けられながら、言えるようになったり、台詞を思い出すまで、周りの子がずっと待っていてくれたり、優しいぱんだ組さんの姿が垣間見え・・・・またまたほっこり♡

当日は、素敵な衣装を身に着け、堂々と発表する姿に、とても成長を感じました。

友達と一緒に一つのことをやり遂げた達成感と充実感は、これからの園生活にもきっと、つながっていくことでしょう。

余目第四小学校６年生

わたしが描く和合の里

石川　龍聖（りゅうせい）
［主殿新田］

ぼくが描く和合の里は、いつまでも、自然にあふれて、きれいな和合の里です。ぼくは、自然あるところで、鳥海山を見ると、すごくリラックスでき、気持ちよくなります。景色も良いです。なので、大好きな景色のある和合の里がいつまでも、自然にあふれた良いところで、あってほしいです。

五十嵐　歩夏（あゆか）
［南野新田］

登校をしていると田んぼや畑を見て季節を感じて、緑がきれいだなぁと思います。地域の人が笑顔で「おはよう」と言ってくれるのが、私は、とっても大好きです。なので、これからもみんなが元気いっぱいでみんなが笑顔いっぱいの和合の里になっていてほしいです。

佐藤　碧久斗（りくと）
［廻館］

ぼくが大好きな和合の里の自然は、晴れた日の鳥海山がとても美しいところです。鳥海山に太陽の光があたると、鳥海山も光ってきれいに見えます。毎朝、登校するときに正面から見える鳥海山は、見ているだけでなぜかほっとします。これからも、ぼくたちを見守っていてほしいです。

上林　稟桜（りお）
［大真木］

私の好きな和合の里は、自然が豊かな緑と光にあふれているところです。四季で景色が変わっていくたびにさみしくなるけどみんなの笑顔が変わらずに、地域の人方と立ち話をしたりしてとても居ごごちがよく、大人になっても続いてほしいなと思っています。

伊藤　誉礼（ほまれ）
［小出新田］

ぼくは、みんなが楽しくいじめのない和合の里にしたいです。仲よくみんなで遊ぶ和合の里にしたいです。ぼくは、仲間はずれはぜったいによくないと思います。みんなが楽しいと思う和合の里にしたいです。なので、ぼくもいろいろな友達に声をかけていっしょに遊びたいと思います。

横山　寧南（なな）
［沢新田］

私が好きな和合の里は、笑顔あふれる元気のいいところです。四小のみんなは、笑顔であいさつをしていて、元気だから大好きです。地域の人たちもたくさん声をかけてくれてあたたかいです。これからも、みんなの笑顔がいっぱいの元気な和合の里であってほしいです。

わたしから見た和合の里

今年度、余目四小に赴任して、可愛らしい子どもたちに出会いました。素直で、元気がよく、優しさ溢れる子どもたちです。七月に、二年生の生活科の学習で、町探検に出かけました。学校周辺の神社や公民館を巡っていると、地域の方に温かい声をかけて頂きました。その時、この美しい自然と、地域の方々の温かい支援によって、この優しい子どもたちが育ったのだと実感しました。

子どもたちの故郷である和合の里のよさを、子どもたちと一緒に、さらに見つけていきたいと思います。

庄内町立余目第四小学校　教諭　本間　絢子　先生

畑にこんにちは！

鶴巻 里津子さん（廻館）

秋晴れが気持ちよく、外仕事が気持ちよい日、今回お邪魔したのは鶴巻里津子さんの畑です。

お邪魔した時は親戚の方とマルチに玉ねぎの苗を植えていました。穴の開いていないところに苗を植えるときはマルチバーナーを使って丸く焼き切った後に植えていました。玉ねぎを植えるときは細めの苗を植えると上手にできるそうで、太い苗を植えるととうがたってしまうと教えていただきました。今年は玉ねぎの苗を種から育てたそうです。

畑には玉ねぎの他にも菊や春菊、パプリカ等が植えられていました。ハウスには山形青菜や大根、ブロッコリー、チンゲン菜など多くの野菜が植えられていました。

作業をするときは親戚の方がお手伝いに来てくださるそうです。また親戚の方と畑を共有して、育てたものは親戚同士で分け合っているそうです。それでも食べきれないものはお友達にあげていて、それを楽しみにしているお友達も多いそうです。

▲マルチを焼き切る道具

畑のことを教えてくれる人がたくさんいて、わからないことがあったら聞きながら育てているそうです。

青菜を漬けるのが上手で、おいしく漬けるポイントは松前昆布をいれることだそうです。青菜の時季になると町内会の集まりやお友達から「里津子さんが漬けた青菜のお漬物食べたいなやの。」といった催促があると笑顔で話してくださいました。

季節の郷土料理

大根のしょうゆ漬け

◆材　料

大根……1 kg
☆醤油……200cc
☆みりん……50cc
☆ざらめ……120 g
酢……50cc

◆作り方

①大根は皮をむいて乱切りにし、ボールに入れる
②☆を鍋に入れ、煮立たせる
③②を熱いうちに1にかける
④③に酢を入れてよくかき混ぜる
⑤2日～3日で完成（重石はいらない）

◆ワンポイント

※大根によく味がしみるように皮をむき、乱切りにすることで早く漬かる

◆参考

○お好みで鷹の爪や切り昆布を入れても美味しい

人生100年時代

歯とお口の健康を守り、健康寿命を延ばそう!!

庄内町役場
保健福祉課　健康推進係
保健師　渋谷　麗

いつまでも健康でいきいきと暮らすためには、歯とお口の健康管理が大切です。歯とお口の健康が保たれていると感染症にかかりにくいと言われています。

健康しょうない21計画（第３次）では、むし歯のない３歳児の割合の増加、定期的な歯科健診受診者40歳以上の割合の増加を目標にしています。

おいしく食べ、健康な生活を送るには、歯は20本以上あることが理想的です。80歳で20本以上の歯を維持できるように、以下のポイントに気をつけましょう。

【歯とお口の健康を守るポイント】

- 就寝前は必ず歯をみがきましょう。歯と歯の間は、歯間ブラシやデンタルフロスなどを活用しましょう。舌の上についた白い汚れを除去するには、舌専用ブラシがあります。
- かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けましょう。
- 食事は、よくかんで食べる習慣をつけましょう。
- 間食の頻度や内容を見直しましょう。
- 小学校２年生くらいまでは、毎日仕上げみがきをしましょう。また、子どもに自分で歯みがきをする習慣と、規則正しい食生活を教えましょう。

問合せ先　健康推進係 ☎43-0817

わごう駐在所

運転に不安を感じたら まずは相談

庄内警察署
佐藤　正人
（第四学区担当）

加齢に伴い、視野障害や筋力の衰えなど身体機能が低下すると、運転操作のミスへとつながります。これにより、重大な交通事故を引き起こす可能性が高まります。

「若い頃とちょっと違うな」「おかしいな」と感じたら、運転免許証返納の時期です。

高齢ドライバーや家族のみなさん

高齢や病気等で運転を続けることに不安を感じたらお電話ください。

安全運転相談ダイヤル　＃8080（シャープ　ハレバレ）

運転免許証を返納すると「運転経歴証明書」の交付が受けられます。

運転経歴証明書は、運転免許証に代わる公的な身分証明書として銀行口座開設時等に利用可能です。その他、タクシー・バスの運賃割引や、宅配料金の割引など様々な特典が受けられます。（自治体により異なります。）

※令和元年12月1日からは、運転免許証の有効期間が経過して運転免許が失効した方も運転経歴証明書の交付が受けられます。

和合の里INFORMATION

公民館がコミュニティセンターに移行します

庄内町では令和4年4月を目途に町にある7つの公民館を指定管理者制度とコミュニティセンターへの移行を計画しております。第四学区は和合の里を創る会が指定管理者として余目第四公民館・亀ノ尾の里資料館の管理・運営を行っているため、令和4年4月から余目第四公民館がコミュニティセンターへ移行予定です。

なぜ、公民館からコミュニティセンターへ移行する必要があるのでしょうか。

和合の里を創る会では平成29年度から和合の里振興計画策定に向けた地域カルテの策定、住民アンケートを実施しました。地域カルテから各集落の人口が減少傾向にあること、高齢化率（令和2年4月1日現在　40.1％）が年々高くなること、このままではこれまで行ってきた行事が実施できなくなること等の問題が顕在化しました。この問題を解決するためには地域全体で問題意識を共有し、共に支え合うことが大切です。そこで平成30年度、令和元年度に振興計画策定に向けワークショップ等を行いながら将来像、基本目標、分野別目標を策定しました。

令和元年度には和合の里振興計画を具現化するために実施計画を策定し、現在、振興計画に基づいて事業を行っています。振興計画の具現化にあたり社会教育のみならず、福祉・産業活動も担えるコミュニティセンター化が必須です。

亀ノ尾の里資料館　第92回企画展「西遊草から見る清河八郎」

清河八郎が母親と一緒に伊勢参りの旅をしたときに記した旅日記「西遊草」とそこから見える当時の世相、風俗や八郎の人柄等を紹介しています。

◆期　間 / 令和３年２月 14 日(日)まで
◆時　間 / 午前９時～午後７時
◆入館料 / 無料
◆問合せ / 和合の里を創る会事務局(余目第四公民館内)　TEL44-2162

編集後記

新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止になり、公民館には閑古鳥が鳴いています。今年は丑年。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。その働きぶりから丑年は「これから良いことのある前触れ」の年だそうです。早く元通りの日常に戻り、皆様とお会いできることを祈っています。

2021.1.15 発行
編集発行　和合の里を創る会　TEL0234-44-2162　FAX0234-44-2169　E-mail koumin-4@bz04.plala.or.jp　印刷　富士印刷株式会社